

9th International Symposium on Equine Reproduction (第9回国際ウマ繁殖学会)での学会発表

平野 悠子

連合獣医学研究科獣医学専攻臨床獣医学講座（博士課程3年）

1. 目 的

9th International Symposium on Equine Reproduction（第9回国際ウマ繁殖学会）に参加して研究成果をポスターにて発表した。さらにウマ繁殖学分野の最新の情報を得るために各国の研究者の方々と情報交換を行った。

2. 期 間

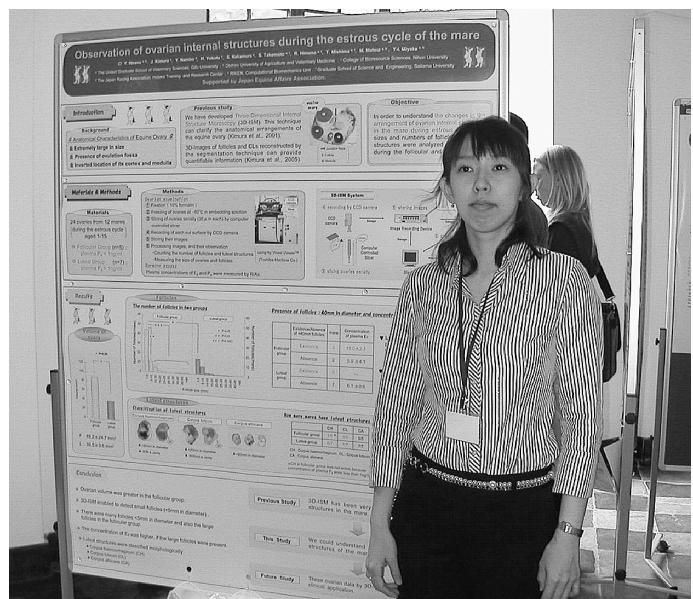
平成18年8月6日～平成18年8月11日

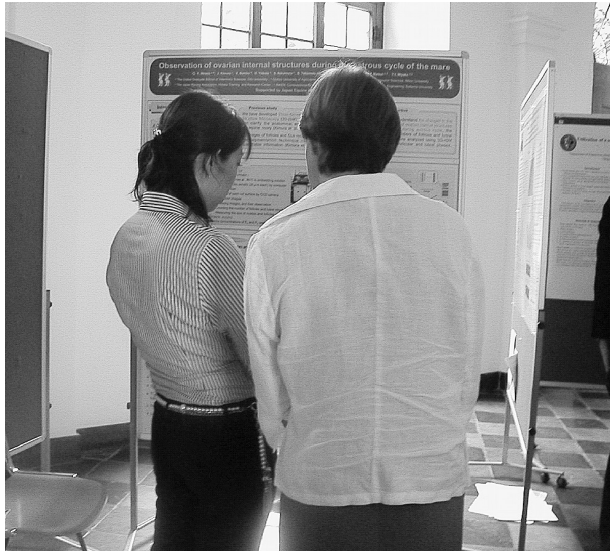
3. 場 所

Kerkrade, The Netherlands

4. 内 容

International Symposium on Equine Reproduction（以下、ISER）は4年に1度行われる学会であり、世界各国のウマ繁殖分野に携わる研究者が参加して活発な討議や情報交換が行われる。第9回 ISER はオランダのユトレヒト大学主催でケルクレイドというオランダ南端の小さな町で開催された。宿泊と学会会場が併設されていたため、朝9時から夜の8時過ぎまで様々なプログラムがびっしりと用意されていた。小規模な学会なので同時刻に演題が重複することはなく、じっくりと聞くことができた。また、夕食後に行われるワークショップでは盛んな意見交換が行われていた。





私は2日目にポスターセッションで“Observation of ovarian internal structures during the estrous cycle of mares”という演題で発表させていただいた。ウマ卵巢の特異的な構造を3次元内部構造顕微鏡装置という特殊な機械を用いて解析した結果を示し、これまで不明瞭であった卵巢内部の詳細な構造を明らかにした。この装置自体が特殊であるため、その説明に時間を要した。英語での説明は不安もあったが相手にきちんと通じて今後のアドバイスをもらえたことは非常に嬉しい事であった。また、ポスターの縮小版や関連文献を30部ほどプリントアウトして自由配布したところ、多くの研究者の方々に持って行ってもらった。

他の演題を聞いて感じたことは日本のウマ繁殖分野の発展不足であった。ETやクローン技術は牛に関しては日本も世界に劣ることはないのだろうが、馬に関してはほとんど行われていない。馬市場の需要の違いがあるのかも知れないが、経済的にも非常に有用なこれらの技術を現場に取り入れられない日本の現状に疑問を感じた。同時にそれらの分野に非常に興味を持って、多くの情報を得られたことは今後の大きな糧になるだろう。

最後に、この度の学会参加に際して多大なご支援をいただいた帯広畜産大学後援会に心より感謝申し上げます。

キーワード：ウマ， 卵巢， 三次元内部構造顕微鏡装置